

## 支部だより

2022/12/18 No.35 東京支部事務局

### 支部活動報告

新型コロナに注意しながら、通常に近い支部の活動を行っている。

・10月8日には写団薬師の前川彰一氏の特別研究会をケンコー・トキナーの4B で開催した。参加者20人、辛口だが有益な講評であった。(概要後述)

・9月30日(金)～10月2日(日)にかけて柵池自然園で秋の撮影会を実施した。結構ハードではあったが楽しい撮影会であった。(概要後述)

・10月19日にわが東京支部のエース高橋清さんがご逝去された。1年ほど前から急に体調を崩され治療を続けてはおられたが、大変残念である。(追悼文後述)

・11月4日(金)～11月10日(木)にかけて東京支部20周年記念作品展を富士フォトギャラリー銀座全館貸し切りで開催した。配列の良さ、展示全体の色合い、作品の質など多くの方からお褒めの言葉をいただいた。今回は「日本の風景」と「東京の風景」の2本立てにした。身近な「東京の風景」に興味を持って会場に来られた方もおられ、この企画をして良かったと思う。(概要後述)

・20周年記念作品展に合わせて、戸張さんはじめ関係者のご尽力で、写真集も作られた。各人の進歩の証となる。

・12月2日(金)～12月8日(木)にかけて富士フィルムフォトサロン東京にて故高橋清氏の個展が開催された。東京支部の方々が交代で当番にあたった。作品を見て涙ぐむ方もかなりおられ、胸を打たれた。(概要後述)

・12月3日(土)に山口高志氏最後の定例研究会を開催した。ケンコー・トキナー7F のセミナー室、参加者25人、見学者1人。通常の講評会に加え、特別に最終講義もしていただいた。東京支部の作品のレベル UP に大変寄与をされており、感謝に堪えない。(概要後述)

本年度も何とか無事に支部活動を終えることができた。これも支部会員の皆様の絶大なるご協力の賜物と深く感謝している。

### ★特別研究会概要 講師 前川彰一氏

前半は講評会を1人2点で実施。最初に辛口の講評をするとの一言あり。

作品ごとに、着目すべき点、不要な部分など多くの的確な指摘がなされた。2点のうちから金を1点選んでいた。最後に金の中から、優秀作品6点を選んでいただいた。

後半は先生の作品を見せていただきながら色々な撮影環境での撮影例を紹介していただいた。

#### ◆撮影のポイント

- 太陽を入れるか入れないかの判断→下部に視線を導きたいときは入れない
- 上空の寒気で下に霧が漂うとき→霧の動きを止める
- シルエット(樹木)のディテールを出すなど。
- 雪と玉ボケの撮り方→傘でレンズと雪の間1m以上の距離をあけてフラッシュで撮影。
- ブナ林と水溜まりの道→霧は背景にして目の前を生かす。
- 霧の中で谷と街と街灯の光→行燈効果(上空寒気)をねらう。

#### ◆こうすれば良くなる撮影術

全体の撮影から、4段階程度で見る位置を変えながらポイントを縛っていき、完成に至る工程の例を7例ほど紹介していただいた。今後には生かしていきたい。

### ★山口高志氏最終研究会 & 講義

今回は、山口高志氏の研究会としては最後なので、通常の研究会に加え、先生の最終講義をお願いした。

さて、研究会では、今回は各人作品3点とし、参加できない3名の方の講評は録音して送った。

作品提出者は23名、持ち時間1人7分で行った。各人の作品3点の内1点を金として選んでいただき、最後に、金の中から優秀作品7点が選ばれた。

後半の山口先生の最終講義は「日本の自然景観の特徴を反映する撮影術」という題で山岳、樹林帯、高原と湖沼、溪谷と川、野と花、海と海岸の6区分で作例各7点、計42点の画像を紹介しながら、日本列島の特徴\*を生かした景観の撮影術について説明された。

\* 日本列島の位置、東経122度～154度、北緯20度～46度、東西・南北とも約3,000km の細長い国土、四季の変化がはっきりしている。

先生の自然風景に対する愛情を感じた。今後の撮影に生かしていきたい。

山口先生には、5年の長きに渡って、東京支部会員の作品講評のみならず、撮影指導、作品展の作品選定などをしていただき、お蔭様で支部会員の作品のレベルもぐんと上がって来た。最期の総仕上げの20周年記念作品展も大変好評だった。深い謝意を表したい。最後に記念品贈呈と記念撮影を行った。

(文責 井上武夫)



## 2022 秋の撮影会報告

JNP 東京支部の秋の撮影会を9月30日(金)～10月2日(日)の日程で、柵池自然園で開催しました。宿泊する柵池山荘を中心に、移動はすべて徒歩とする前提で募集したところ、最終的には10名の参加となりました。(敬称略:井上、紀田、佐々木、佐藤直、鈴木暎、戸張夫妻、中島美、渡邊、菅澤)  
30日12時に柵池高原のゴンドラリフト乗り場に集合。

電車バスで駆け付けた3名含めて、全員無事揃いました。ところが、リフトやロープウェイで急激に高度を上げるため、気圧変化で体調を悪くする方がおられて、想定外の事態になりましたが、全員無事に柵池山荘までたどり着きました。撮影会の様子は紀田さんの感想文をご覧ください。

天気予報ではあまり良くない予想でしたが、終始想定を超える好天に恵まれたのはよかったです。紅葉のピークにはやや早く、対象の選択に若干苦勞する撮影会となりました。それでもきっと、数多くの傑作が撮影出来たのではないのでしょうか。事故も無く、成功裡に撮影会を終了することが出来、参加者関係者の皆様に感謝いたします。

(文責 菅澤光裕)



## 柵池自然園撮影の旅

2022年9月30日正午、柵池パノラマウェイ柵池高原駅に集合した時から私の秋期撮影が開始した。柵池自然園行きは、2019年10月のJNP大撮影会参加以来で、久方ぶりである。まずは機械力で自然園駅へ向かい柵池山荘へ到着、午後の撮影開始となった。各々が自由にポイントを探しながら水芭蕉湿原や対峙する樹林帯を撮影した後、山荘へ戻り入浴～夕食となった。山荘の標高は1860mの為、日没後の天空は満点の星が輝き、天の川も手に取れる様に見える。サン・サーベイヤーなるアプリを駆使して撮影したいが、まだまだ勉強中の我が身の為、それなりに撮影を終えた。

2日目は、前日の疲れも無く出発。やはり10月になると早朝の気温は低い。星座を撮るべく柵池ヒュッテ下方



にある1993年迄運行していたバス停の広場にて三脚を立てる。東の空が明るくなるとともに遥か天空の天の川も薄くなっていく。反対に朝陽が上り始め薄明の山々の彼方には四阿山、浅間山、八ヶ岳そして南アルプスの山々が遠望出来る。荘厳な自然のドラマの幕開けである。その後自然園の水芭蕉湿原側にて撮影開始。山荘へ戻り朝食後、一番遠方の展望湿原へと向かう。7月～8月であれば、わたすげ、ニッコウキスゲの花畑がある湿原を左手に楠川の橋を渡り、これからがアップダウンの本番となる。自然園全体を俯瞰しながら、手持ちで撮影しつつ歩く。ザックの重さが足元に響いてくる。銀命水で小休憩、缶ビールを冷やして鈴木さんと乾杯、これは最高の味！展望台到着後は昼食兼撮影。大雪渓、杓子岳を撮影後下山。途中の浮島湿原テラスに立ち寄り、小蓮華岳、白馬岳を遠くに、斜光線に引き立つ山腹のナナカマドの赤色、ダケカンバの黄色の彩りを撮影。

3日目の最終日は、朝食後解散。帰りのバス車中から仰ぎみる後立山連峰の鹿島槍の双耳峰から五竜岳、唐松岳、不帰のキレット、白馬三山等の山々。スキー場では、五竜、八方、柵池高原等を望見！青春の想い出が凝縮した風景を後に帰路についた。短い3日間の旅は無事に終わりましたが、撮影会担当、事務局の方々を始め、参加者の皆様との楽しい会話をありがとうございました。

(文責 紀田幸男)

## JNP20周年記念作品展を終えて

11月4日～10日にかけて、JNP東京支部の20周年記念作品展「秀麗彩美」を、富士フォトギャラリー銀座にて、開催しました。

20周年を記念して、例年の「日本の風景」に「東京の風景」を加えて大全紙53点、ギャラリーの全スペース1、2、3にわたっての盛大な開催でした。

まだ新型コロナの影響が残っている中にもかかわらず、多数の写真愛好家の皆様、JNP本部及び各支部の方々、プロ写真家の方々にご来場いただきました。

ご来場者人数は、実カウント557名、自動カウントで1281名で、大変多くの方々にご来場いただけたものと思います。心より御礼、感謝申し上げます。

主な来場者の方々は、JNP本部から、名誉会長の山本一さん、指導会員の川隅功さん、辰野清さん、萩原史郎さん、柴馬智太郎さん、理事の前山和敏さん、安藤和幸さんなどのの方々。

JNP各支部から、神奈川支部長久保田隆彦さん、千葉支部長小川英信さん、埼玉支部長上野耕彦さん、群馬支部長斉木稔さん、他各近隣支部の会員の方々。

プロ写真家の山口高志さん、福田健太郎さん、林惣一さん、前川彰一さん、須山実さん、喜多規子さん、久野鎮さん、篠原雅彦さんなどのの方々。

お名前を掲載出来ない程多くの方々にご来場いただき、ご感想をいただきました。

おかげさまで大変有意義で、今後の励みになる、良い作品展とすることが出来ました。

この場を借りて、改めて感謝、御礼申し上げます。有難うございました。

(文責:藤野治雄)



## 高橋清さんを偲んで

皆さん、ご承知の様に、東京支部創設より参加し、撮影技術担当役員として我々に風景写真の撮影技術指導をしてくれた風景写真界のレジェンド・高橋清さんがご逝去されました。

高橋さんとは、東京支部創設総会の時に初めてお会いしました。その時印象は、タオルで鉢巻きをした太った変なおじさんと言う感じで、創立総会後の集合写真を撮ってくれたことを思い出します。

撮影にも、個人的に良く同行させていただき、早朝からの撮影ポイント、撮影のタイミング、構図、露出・・・等また、高橋さんのカメラのファインダーも覗かせてもらい、その神髄を教えていただいたと思います。

高橋さんが師匠と仰ぐプロ写真家・須山実先生(現須山会会長)、高橋さんのお兄さん、今は亡き高橋さんを師匠と仰ぐ藤田さん(東京支部前事務局長)、前山さん(東京支部前メンバー)そして、家内も共に、乗鞍、霧降ノ滝、六方沢、花の都公園、山中湖、美ヶ原高原、鍋倉高原、野々海高原、松代、花見山、明野のひまわり・・・等多くの撮影地の早朝撮影、夕景撮影に同行させていただきました。

その後は、高橋さん、藤田さん2人による珍道中での撮影が多く、早朝撮影で撮影地に行くとお2人に出会い、一緒に撮影させていただくことがありました。

また、退院された直後、美ヶ原高原に行くと1人で来ていた高橋さんとバッタリ・・・“高橋さん、1人で大丈夫”と声をかけましたが、いつもの様にこやかな顔でレンゲツツジ、霧と日の出の撮影をしていた姿を思い出します。体調も良くないのに、高橋さん、本当に撮影が好きで好きでたまらないのだなと感じた次第です。

高橋さんは、自分の持っている風景写真撮影の実践技術について惜しげもなくそのノウハウをオープンにし、その基礎を学ばせて下さった風景写真の先生です。

これも、高橋さんの風景写真の作品づくりに対する自信から来るものと思います。

また、高橋さんは、風景写真のみならず大学時代からのバンド演奏(一時、プロとして活躍)、高橋中華大飯店総料理長としても鬼才を発揮する天才であったと思います。

時々、撮影地のホテルでの自炊、また、ご自宅にご招待していただき、美味しい中華料理をご馳走していただ

きました。

これからは、天国で高橋さんを師匠と仰ぐ藤田さんと2人の珍道中で焼酎を飲みながら、ゆったりと風景写真を楽しんでください。ご冥福をお祈り致します。合掌。

(文責 戸張 真)

## 新たな仲間紹介

8月に入会させていただきました小林征男です、よろしく願いいたします。現支部長の井上さんが高校の同期生だったのが縁で入会させていただきました。

写真を本格的に始めたのは15年ほど前にSONYのα700を購入したのがきっかけでした。2年ほどして地元の写真クラブに加入し先輩の指導を受けながら撮影を楽しんでおりましたが、先輩諸氏が皆さん80歳を超えられてクラブは自然消滅。その後はSNS(Facebook)で知り合った風景写真や星撮り好きの写真仲間と交流しながら写真を楽しんでいます。3年ほど前から現代写真研究所で講師をされている入江進先生が主宰されている「写談 撮んぼ」に参加しました。自然の風景写真と風景と星空のコラボ(星景写真)が好きでよく撮影に出かけています。街撮りのスナップやポートレート撮影は苦手な分野です。カメラはSONYのα7RⅢとα7Ⅲを併用しており現像にはCapture Oneを使っています。良く行く撮影地は裏磐梯で四季折々の風景を楽しんでいます。星撮りは長野方面が中心で雲レーダーのアプリを見ながら仲間と一晩中走り回っておりましたがここ3年はコロナの影響で中断中です。星撮りにご興味のある方がおられましたらお声がけ下さい。

余談ですが、自分の写真を発表する機会があまり無かったので、地元の友人と埼玉県美術展(県展)に応募していました。(文責 小林征男)

## 写友広場

2022年9月から12月の間には以下の方が入選入賞されました

### ■ 隔月刊風景写真

100人展入選

初夏樹景

高橋清

Xtension 展入選

秋のロンド

戸張伸子

## ■ 日本写真家連盟 (PFJ) 公募展

レオフォト賞 朝靄の中で 戸張伸子  
入選 雪降る岸边 太田桃子

## ■ 日本写真作家協会 (JPA) 公募展

入選 秋彩 藤野治雄  
入選 ハート 佐々木節子

## ■ JNP ニュース増刊号

佳作 朝靄に包まれて 戸張伸子  
(文責 戸張伸子)

## 事務局より

本年度も、新型コロナと共存しながら、大きな事故もなく無事に諸行事を行うことができた。来年度も、皆様のご協力を得ながら支部の運営を進めていきたい。

### 2023年の予定

#### ★1月14日(土)総会

新春講演 喜多規子氏

「風景写真の上達を目指して／コンテストへの挑戦」  
(仮題)

#### ★定例研究会

- ・3月18日(土)定例研究会 萩原史郎氏
- ・5月20日(土)定例研究会 萩原史郎氏
- ・8月19日(土)定例研究会 萩原史郎氏
- ・12月16日(土)定例研究会 萩原史郎氏

#### ★特別研究会

- ・7月2日(日)特別研究会 講師未定
- ・10月1日(日)特別研究会 講師未定

なお、定例及び特別研究会の会場はケンコー・トキナー中野の4B 又は7F です。

#### ★撮影会

- ・4月1日(土)関東5支部合同指導撮影会  
昭和記念公園 指導:萩原史郎氏
- ・初夏の撮影会(未定)
- ・秋の撮影会(未定)

#### ★第21回作品展

- ・11月3日(金)～11月9日(木)  
富士フォトギャラリー銀座 スペースー1

(文責 井上武夫)

## 編集後記

今年の秋は紅葉撮影、20周年記念写真展、高橋さんの葬儀などいろいろなことがあり、駆け足で過ぎてしまったように思います。

私が東京支部に入会してから、悲しいかな4人の会員戸村さん 長谷川さん 藤田さん 高橋さんの訃報に接しました。

戸村さんはギター職人をされていた方で退職後に入会されました。隔月刊風景写真にも熱心に応募されていましたが、胃癌で亡くなりました。

記憶に残るのは「四季のいろ」に入選した“カヤノ平の大きな木を入れた朝焼けの作品”です。

長谷川さんは講評会後の懇親会の手配をいつもしてくださいました。12月の講評会で忘年会をした直後に突然訃報が入り驚きました。やはり「四季のいろ」に入選した大きな雲のかかった山の作品を思い出します。

藤田さんにはたくさんの思い出があり支部便りに書いたことがあります。難病のため亡くなりました。今でも折にふれては作品やタイトルを思い出します。

そして、今回は高橋清さんの訃報です。12月の個展、写真集を誰よりも楽しみしていらしたのに残念ながら見ることなく亡くなりました。

高橋さんは白鳥だけでなく風景も素晴らしい作品をたくさん残されています。そのキャラクターと共にいつまでも高橋さんの作品を忘れないと思います。

コンテストに応募するのが大好きで「自分は生涯チャレンジャー」というのが口癖でした。私も入会したときから主人と一緒に撮影に同行させていただいたり良い宿を紹介していただいたりしてたいへんお世話になりました。

ご冥福を心からお祈り申し上げます。

人は亡くなっても思い出してくれる人がいる限り生き続けているとか・・・

私達もいつまでも心に残るような作品作りを目指して撮影を楽しみたいものです。

1年間支部便りへのご支援ご協力をいただきありがとうございました。

皆様にとって2023年が健康で実り多い1年になりますようにお祈りいたします。 (文責 戸張伸子)